



須野 (すの) ※方言名: スノ

笠利町の東海岸に位置する須野集落。集落の背後の平地にはさとうきび畑が広がり、その奥には笠利町の水瓶である須野ダムがあります。須野ダムは野鳥観察のスポットでもあり、ウグイスやイソヒヨドリなど様々な鳥たちを見ることもできます。



1 須野ホジョロムイ (ホジョロムイは強い人への敬称)

須野と用に二人の豪傑(ホジョロムイ)の伝説が伝えられている。二人は力勝負による決着を望まず「力持ちを願えば川上へ、でなければ川下に埋めよ」と遺言し、双方切腹。両集落とも川下を選び埋葬した。両豪傑は今でも須野で青い火、用で赤い火を放ち戒める日があるという。



2 ノロ墓(コビロ海岸)

琉球王国の首里王府によって編纂された歌謡集「おもしろそうし」の記録に「へるかさり…」とあり、琉球王治に辺留城と辺留城ウドンが関連する。須野ではカミサマに関する場所が多く、ノロ墓もその一つである。コビロ海岸では見晴らしのいい砂丘上に、アダンに覆われたサンゴの箱形石棺墓と墓地がある。島人が畏れる場所である。現在は草に覆われ行くことが困難である。



3 厳島神社

須野集落東南の見晴らしのいい小高い丘に厳島神社が建立されている。須野の里・城・崎城・大道の地名や地形から城館施設、災害時の避難所、海の見張場だったとも考えられる。神社では海の女神を祀り、六月燈も毎年行い地域の人から親しまれてきた。全国各地の厳島神社は約500社あるとされ、その由来は弁才天と同一視されている。



4 ハマジョグチ

海に面する各地のシマでは浜へおる「ハマジョグチ」がいくつか残る。漁業が盛んだった須野集落でも浜に通じるハマジョグチがある。以前は広い砂浜とアダンに覆われた海岸だったが海と集落の標高差がなかったため、河川と海岸沿いに護岸工事等が行われた。それでもハマジョグチは集落から護岸越えて残されている。



5 フーイシ(須野の大石)

須野崎の台地は集落北西に続き麓は民家の一部にかかる。民家の背後にある巨石は「ムリのフー石(森の大きな石)」と呼ばれ、海浜岩の隙間から木々が覆い尽くす。でも、切ってはいけないという聖域な場所。近年の相次ぐ台風で大木になった樹木が倒れ姿を現す。しかし、一帯は島人が畏れ、敬う空間であることに変わりはない。



6 コッチザク

コッチザク、欄干橋、ハチピラ古道は須野ダムにある。須野ダムは須野集落西側にそびえる高岳約183mの麓に昭和63(1986)年から平成9(1998)年にかけて建設された。コッチザクはダム湖の西側にあり、ダム湖底には水田や畑が広がり、かなり昔は須野の旧集落跡もあったとされる。



7 欄干橋(ナナサク橋)

須野ダムの湖底にはエデという地名があり欄干橋があったという。須野ダムの水は、農業用水と飲料水として利用されており、上流には橋が架けられている。橋の欄干プレートには「七迫橋」と書かれている。このあたりから赤木名や屋仁に行く古道があったと思われる。また、ダム湖周辺は桜並木がありきれいな花を咲かす。



8 ハチピラ古道

古老によれば「戦時中だった頃は須野ダム湖底の西側からハチピラデを通り、赤木名、船倉に行く道があり、その道の須野が見下ろせるフカザクというあたりが兵隊を見送る場所で、万歳をして最後の別れをした」と話す。「古道が歩けるようであれば行きたい」とも話し、須野ダム湖は、集落の古老にとって色々な思い出が蘇る場所である。